



2.3GHz帯における携帯電話システムの 導入に向けた検討

総務省
総合通信基盤局電波部
移動通信課

令和2年12月

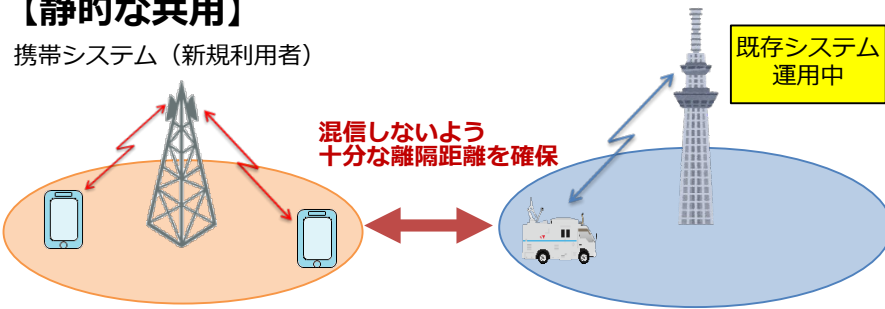
■ 概要

- 現状、同一周波数を異なる無線システムで共用する場合は、相互に電波干渉が生じないように地理的な離隔距離を保つことで静的な共用を行っている。
- 従来の静的な共用方法では、共用相手が電波を発射していない時間があっても、置局可能なエリアが限定されることとなる。
- 一方で、無線システム全体でも、有限な電波資源である周波数のひっ迫度は増しており、特に、移動通信システムへの新たな周波数割当ての需要が増大する中、これまで以上の周波数の効率的利用や共同利用が不可欠。
- 上記を踏まえ、**携帯電話における補完的な運用を前提として、地理的・時間的な運用状況を考慮した動的な共用(ダイナミック周波数共有)による2.3GHz帯の移動通信システムへの周波数の追加割当て**に係る技術的条件の検討を行う。

■ ダイナミックな周波数共有のイメージ

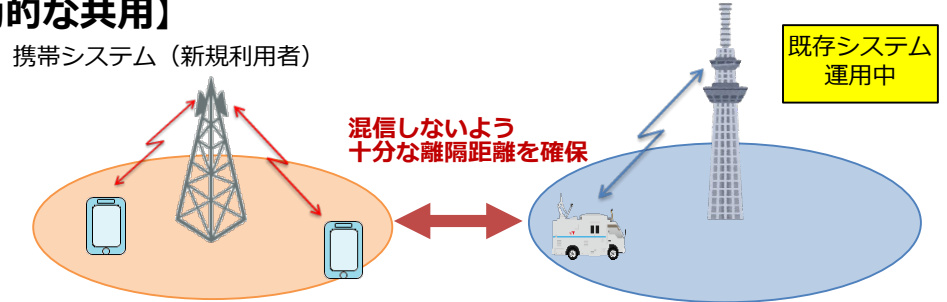
【静的な共用】

携帯システム (新規利用者)

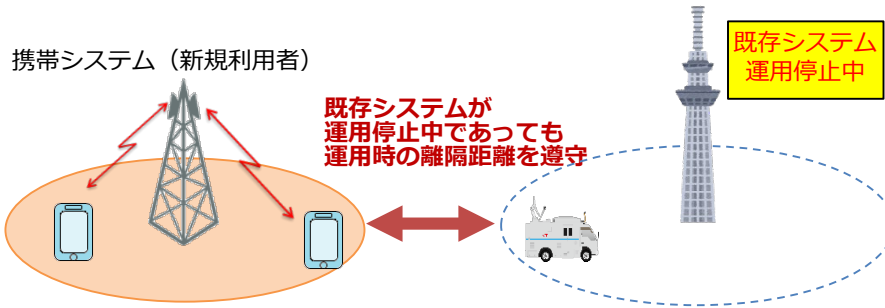


【動的な共用】

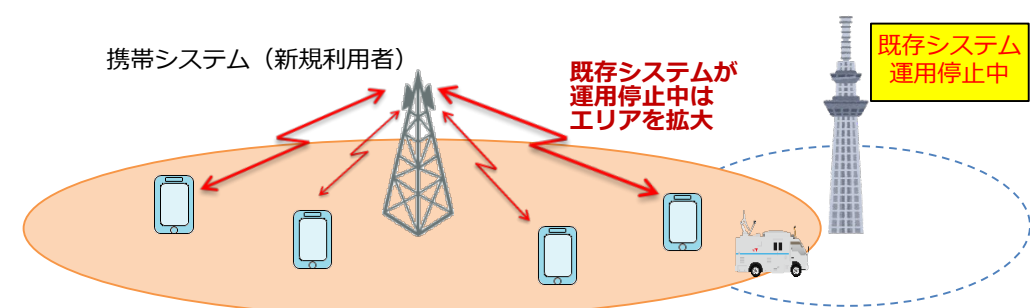
携帯システム (新規利用者)



携帯システム (新規利用者)



携帯システム (新規利用者)



ダイナミック周波数共有による移動通信システムへの周波数割当ての検討

1. 検討周波数帯は2300-2400MHzの100MHz幅とする

※周波数帯域によって共用条件が異なるため、
導入しやすい周波数帯域で先行して検討を進める



周波数再編アクションプラン（令和2年度改訂版）【一部抜粋】

2.3GHz 帯については、平成 30 年度に行った公共業務用無線局（固定・移動）との共用検討の結果を踏まえるとともに、ダイナミック周波数共有の適用を含め、移動通信システムの導入の可能性について検討する。

2. 技術検討作業班において、以下の検討を行う

- ダイナミック周波数共有の国際的な動向
- ダイナミック周波数共有による2.3GHz帯の利用シーン
- 放送事業用無線局（FPU）、公共業務用無線局等との共用条件に関する検討
- 2.3GHz帯における技術的条件

3. 以下のスケジュールで検討予定

2020年12月 検討開始

定期的に作業班で検討 計4回程度（本日、1月上旬、1月下旬、2月中旬）を予定 ←

2020年度内 委員会報告書とりまとめ

2021年春頃 情報通信技術分科会 諮問・答申

総務省において実施している
ダイナミック周波数共有推進会議の
検討内容を活用する

その他の周波数の検討

昨年度、調査検討により FWA との共用検討を行った4.9-5.0GHz帯について、共用検討結果を報告し、今後の方向性についても検討を行う。